平家物語

音読を楽しむ

祇園精舎の鐘の声

諸行無常の響きあり

沙羅双樹の花の色

盛者必衰の理をあらはす

おごれる人も久しからず

ただ春の夜の夢のごとし

たけき者もつひには滅びぬ

ひとへに風の前の塵に同じ

1. 祇園精舎＝昔、インドの須達長者が、釈迦のために建立した寺院
2. 沙羅双樹＝インド北部原産の常緑高木。釈迦が亡くなったとき、その床の四方に二本ずつ植えられていたこの木が、互いに結ばれて一本となり、ことごとく白色に変じたという。

【訳】

祇園精舎の鐘の（　　　）は、すべての物事は（　　　）であることを伝え、沙羅双樹の花の姿は、（　　　　　）の必ず滅びゆくことを告げている。

（　　　　　　　　　　　　　　）の運命は、春の夜の夢のようにはかなく、強い人もまたついには消え失せるもので、それはひとえに風に吹き飛ぶ塵のようなものだ。

【質問】

・「たけき者もつひには滅びぬ」とどういう意味か？

・強い者が負けてしまう・栄えていた者が衰えてしまうということの例は何があるか？